

## 特別養護老人ホーム 皆生みどり苑

### 1 基本方針

- 個人の尊厳を尊重し、安心安全な生活が送れるよう支援します。
- 利用者一人ひとりの生活リズムに合わせた個別ケアを推進し、その人らしさを大切にされた生活を提供します。
- 施設機能を活用した地域貢献を行うとともに、積極的な情報公開により透明性を高め、信頼される施設を目指します。
- 社会のニーズに応じ、高齢者・障がい者等が共に暮らす共生社会づくりに貢献していきます。

### 2 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

#### （1）入退所の状況

定員	前年度末 利用者数	令和3年度中の入退所状況					利 用 延人員	年間平均 稼働率	年 度 末 利用者数	
		入所	退所	退所理由別						
				施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡				
100人	100人	27人	28人	0人	1人	27人	35,415人	97.03%	99人	
3年度	100人	97人	32人	29人	0人	3人	26人	35,370人	96.89%	100人

#### （2）利用者の介護度別人員

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性	0人	0人	1人	7人	11人	19人
女 性	1人	0人	13人	29人	37人	80人
計	1人	0人	14人	36人	48人	99人

（平均介護度4.32）

### 3 事業の実施状況

#### （1）重度者ケアの充実

- ア 嚥下機能の向上及び褥瘡予防のため、利用者の心身状況に応じたケアの提供に必要な情報を多職種で共有し、安心・安全な生活の提供に努めた。
- イ 利用者が快適に過ごす環境を整えるため、ポジショニングクッションや車いすなどの福祉器具の選定をした。またノーリフトケアの実践のため、介護員・看護師を対象としたポジショニング、移乗の研修を実施して、職員と利用者双方の負担軽減を図った。
- ウ 嘱託医と看護師・介護員が利用者の情報を共有し、経管栄養及びたん吸引などの医療サービスを提供した。加えて、その他医療機関との連携も図り、利用者への適切な対応と健康管理に努めた。
- エ 穏やかに最期を迎えられるよう、多職種で情報共有して身体への負担軽減を図った。

またご家族に対してこまめに状況報告をして、利用者やご家族の気持ちに寄り添ったターミナルケアとなるよう努めた。

職員に対してはeラーニングを活用したターミナル研修、及びターミナルケア後には振り返りを行うことで、職員の資質向上と心的負担の軽減を図った。

## (2) 個別ケアの充実

ア 入所時は、事前の聞き取りなどから家具の配置を可能な限り従前の生活環境に近付けた。

また、24時間シートを活用した日々のケアを実践した。24時間シートには利用者の生活リズムや意向を反映させ、かつ定期的に見直しをすることで利用者の把握及びケアの質の向上に努めた。

イ ICT機器の活用については、機器の導入完了が令和4年度末となったことから、機器が本格的に稼働する次年度当初に活用法を検討することとした。

ウ クラブ活動や行事は、新型コロナウイルスのまん延により、昨年度と同様、感染対策をとりながらの開催が難しかった。その中で夏祭りや大福茶会など可能な限り多くの行事を開催した。日常生活とは違う環境を提供し、多くの利用者に喜んでいただいた。

エ 職員の研修受講は、職員全員に年度当初に希望する研修を尋ね、希望に沿う研修を研修委員会にて選定し、受講してもらうこととした。しかし、新型コロナウイルスのまん延により人員の不足や研修自体が中止となった影響で、当初計画していた研修の受講が困難となった。その為、eラーニングを導入し施設内で希望する研修を受講することとした。

## (3) 安定した施設運営

ア (ア) 入所及び地域密着の稼働率は目標97%に対し97.03%となった。利用者の健康、栄養管理及び新規利用者を速やかに入所させるために早期に入所面接を実施したためである。

短期入所の稼働率は、目標50%に対し43.48%となった。新規利用者の拡充、及び利用日数の増加を試みたが、新型コロナウイルスによる職員の欠員や、受入れに制限をかけたことが要因である。

(イ) 欠員期間については、早期の入所面接により空床期間の短縮を図ったが、新型コロナウイルスの影響で予定日時に面接ができなくなり、目標の欠員期間10日に対し、平均欠員日数は13日となった。

イ 感染症対策として、さくら連絡網を用いて、全職員に対して換気や3密の防止などを注意喚起をすることで感染拡大防止に努めた。施設内でクラスターが発生した際も、感染者の発生状況や、鳥取県の立入り調査時に受けた指摘事項などの情報を発信した。

また、必要に応じて臨時の感染対策委員会を開き、多職種で感染対策について協議し、各部署の協力のもと平時からの感染対策を徹底した。

#### 4 実習、ボランティアの受入状況

##### (1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
YMC A米子医療福祉専門学校	5月～6月、11月	4人	66人
米子医療センター附属看護学校	10月	8人	48人
米子北高等学校	9月	4人	20人
計		16人	134人

##### (2) ボランティアの受入実績

元職員1名（行事（大福茶会）の補助など） 延べ2名

#### 5 付帯事業

##### (1) 短期入所事業 定員 併設6名及び空床型

年度	実人員	延人員
令和4年度	15人	950人
令和3年度	21人	1,105人

##### (2) 高齢者世話付住宅援助員派遣事業 定員 22世帯

相談等状況	訪問	電話	その他	合計
安否・健康状態の確認	1,293件	0件	4,702件	5,995件
生活支援・相談	321件	76件	0件	397件
緊急時の対応	0件	34件	0件	34件
合計	1,614件	110件	4,702件	6,426件